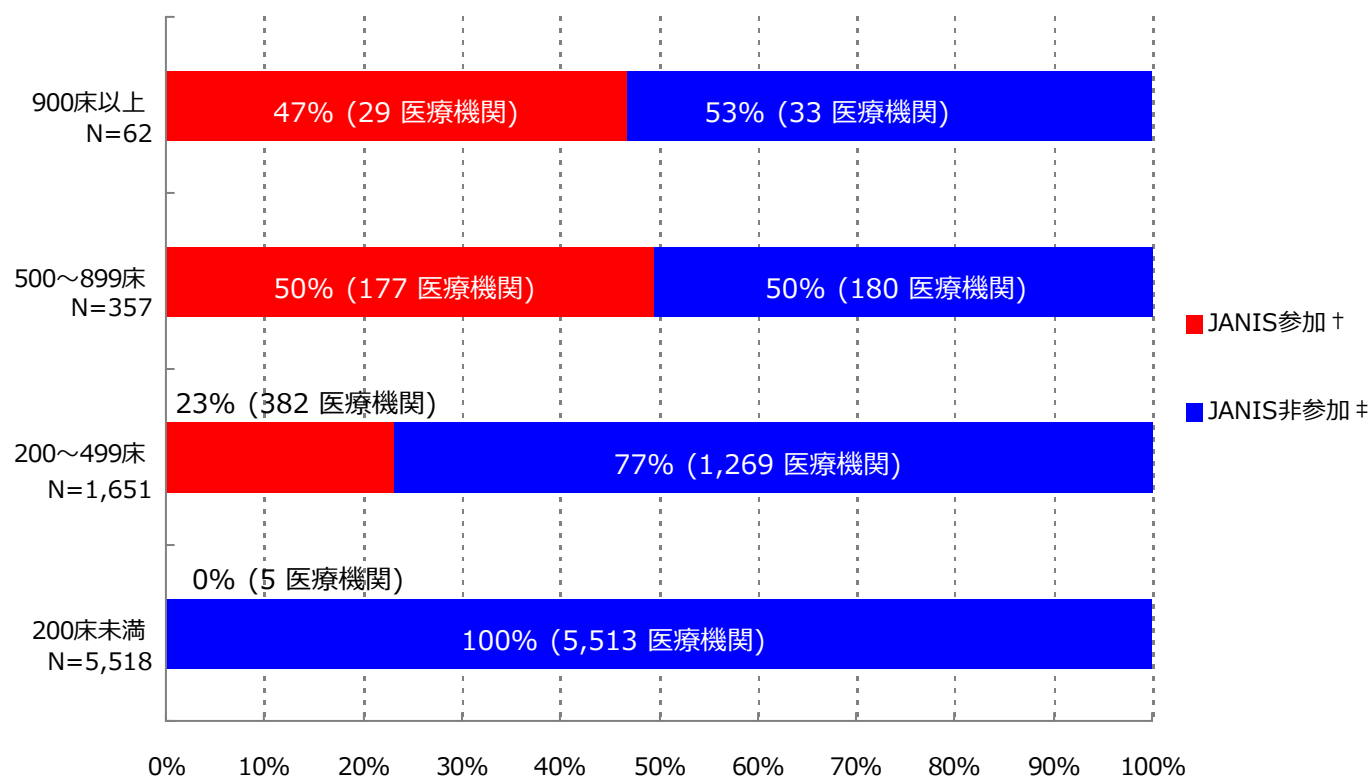


## 1. 集計対象医療機関数\*(593医療機関)



\*集計対象医療機関数 = 対象期間全ての月にデータを提出した医療機関数

† JANIS参加 = 2011年7～9月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2010年 全国医療機関数¶) - (2011年7～9月 集計対象医療機関数)

病床数	2010年 全国医療機関数¶	2011年7月～9月 集計対象医療機関数 (全国医療機関数に占める割合)	
900床以上	62	29	( 46.8% )
500～899床	357	177	( 49.6% )
200～499床	1,651	382	( 23.1% )
200床未満	5,518	5	( 0.1% )
病床数不明	-	0	( - )
合計	7,588	593	( 7.8% )

¶平成22年医療施設（動態）調査を参照した。

精神科病院はのぞく

## 2. 検査材料別集計対象医療機関数、検体数、分離菌数

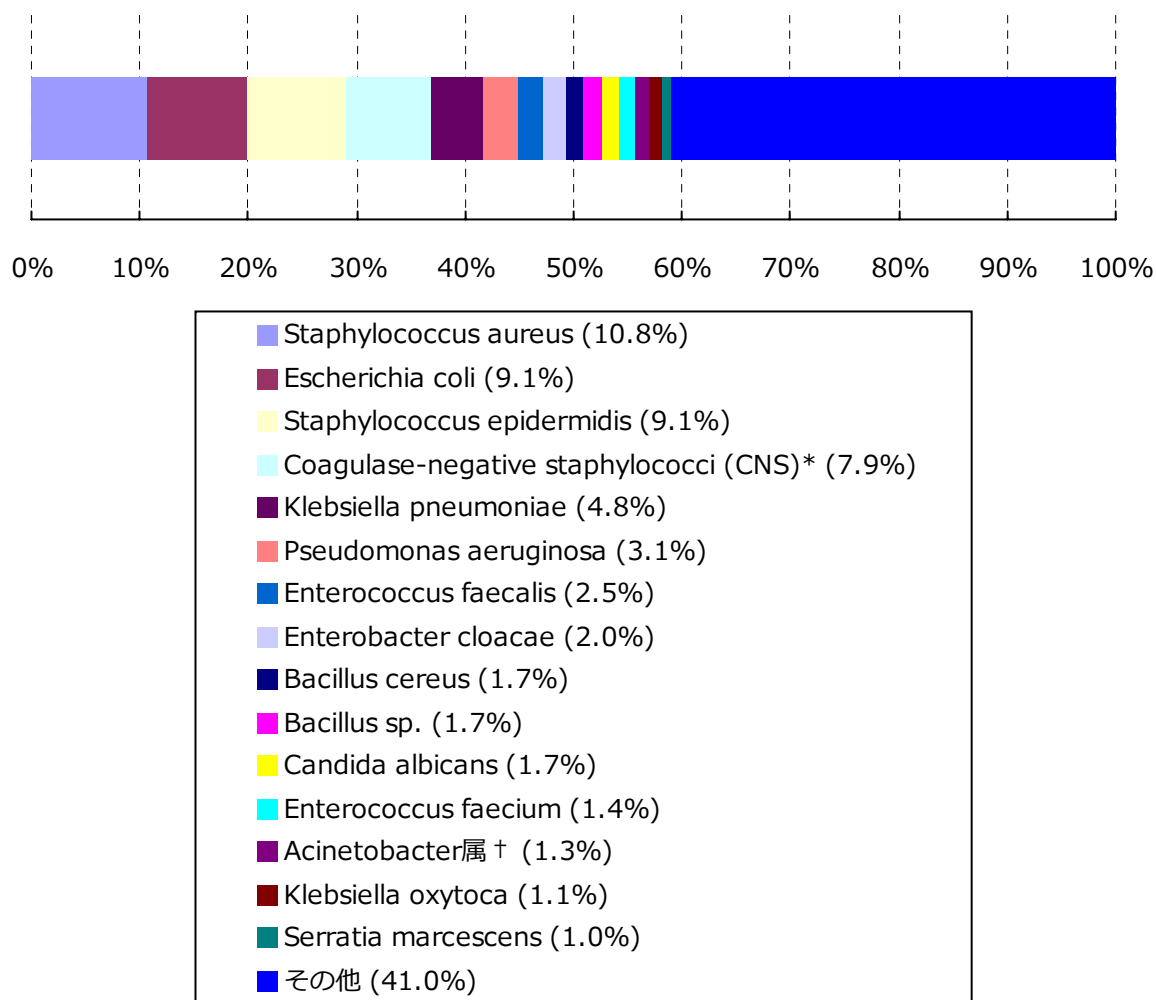
検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	591	274,232	184,230 (392,762)
尿検体	587	108,241	59,855 (91,273)
便検体	584	75,120	38,102 (76,709)
血液検体	574	233,812	45,058 (53,433)
髄液検体	513	12,583	1,104 (1,535)
その他	590	189,523	97,207 (163,673)
合計	591	893,511	425,556 (779,385)

入院患者として報告された検体を集計した

集計対象菌名コード：コメントのみ(9999)を除く全コード

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=53,433)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

†菌名コード：4400～4403と報告された菌

入院患者として報告された検体を集計した

分離頻度が16位以下は「その他」に集計した

血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌) ÷ (血液検体分離菌数) × 100

集計対象菌名コード：コメントのみ(9999)を除く全コード

集計対象分離菌数：53433

集計対象検体：静脈血(コード番号:401)、動脈血(コード番号:402)

菌名コードについて

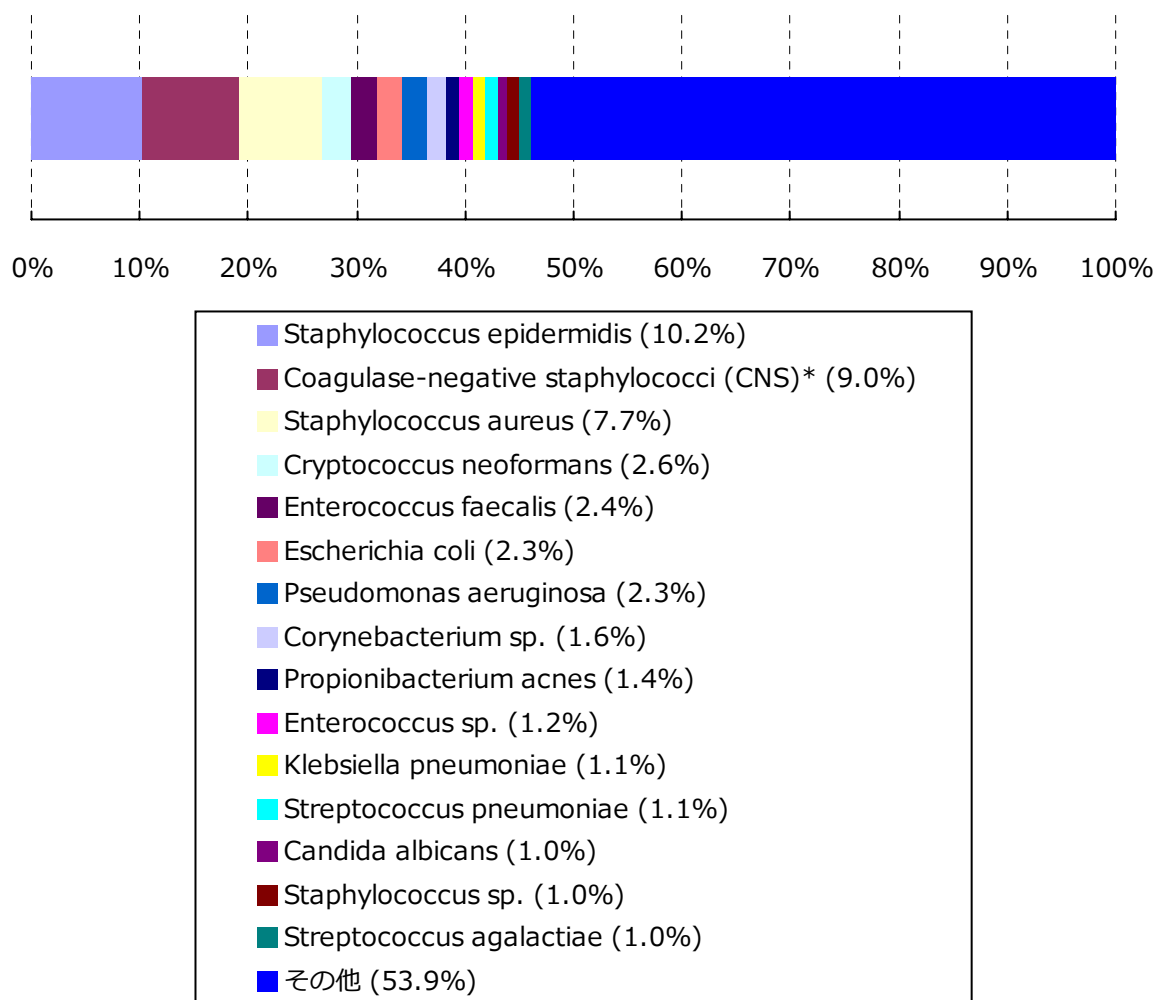
： [http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver4.0\\_20090925.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.0_20090925.xls)

検査材料コードについて

： [http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype\\_ver1.0\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls)

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=1,535)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：Staphylococcus epidermidisは対象外）

入院患者として報告された検体を集計した

分離頻度が16位以下は「その他」に集計した

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌) ÷ (髄液検体分離菌数) × 100

集計対象菌名コード：コメントのみ(9999)を除く全コード

集計対象分離菌数：1535

集計対象検体：髄液(コード番号:403)

菌名コードについて

： [http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode\\_ver4.0\\_20090925.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/infectiousagentcode_ver4.0_20090925.xls)

検査材料コードについて

： [http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype\\_ver1.0\\_20070701.xls](http://www.nih-janis.jp/section/master/specimenentitytype_ver1.0_20070701.xls)

#### 4. 特定の耐性菌分離患者数\*と集計対象医療機関の分離率†分布

	検体提出・菌分離患者数 全体の分離率 ‡	集計対象医療機関の分離率(%)の分布
検体提出患者数	325,018人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	28,693人 (8.83%)	0.00 8.69 50.00   H
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA) ¶	1人 (0.00%)	0.00 0.00 0.28 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	79人 (0.02%)	0.00 0.00 2.70 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	2,932人 (0.90%)	0.00 0.54 13.64   H
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	599人 (0.18%)	0.00 0.00 15.54   H
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	33人 (0.01%)	0.00 0.00 1.24 
カルバペネム耐性緑膿菌	4,254人 (1.31%)	0.00 0.99 18.65   H
カルバペネム耐性セラチア	17人 (0.01%)	0.00 0.00 0.56 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	753人 (0.23%)	0.00 0.00 6.62   H
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	3,408人 (1.05%)	0.00 0.71 19.17   H
フルオロキノロン耐性大腸菌	7,655人 (2.36%)	0.00 2.24 32.12   H

入院患者として報告された検体を集計した

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

† 分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

‡ 全体の分離率

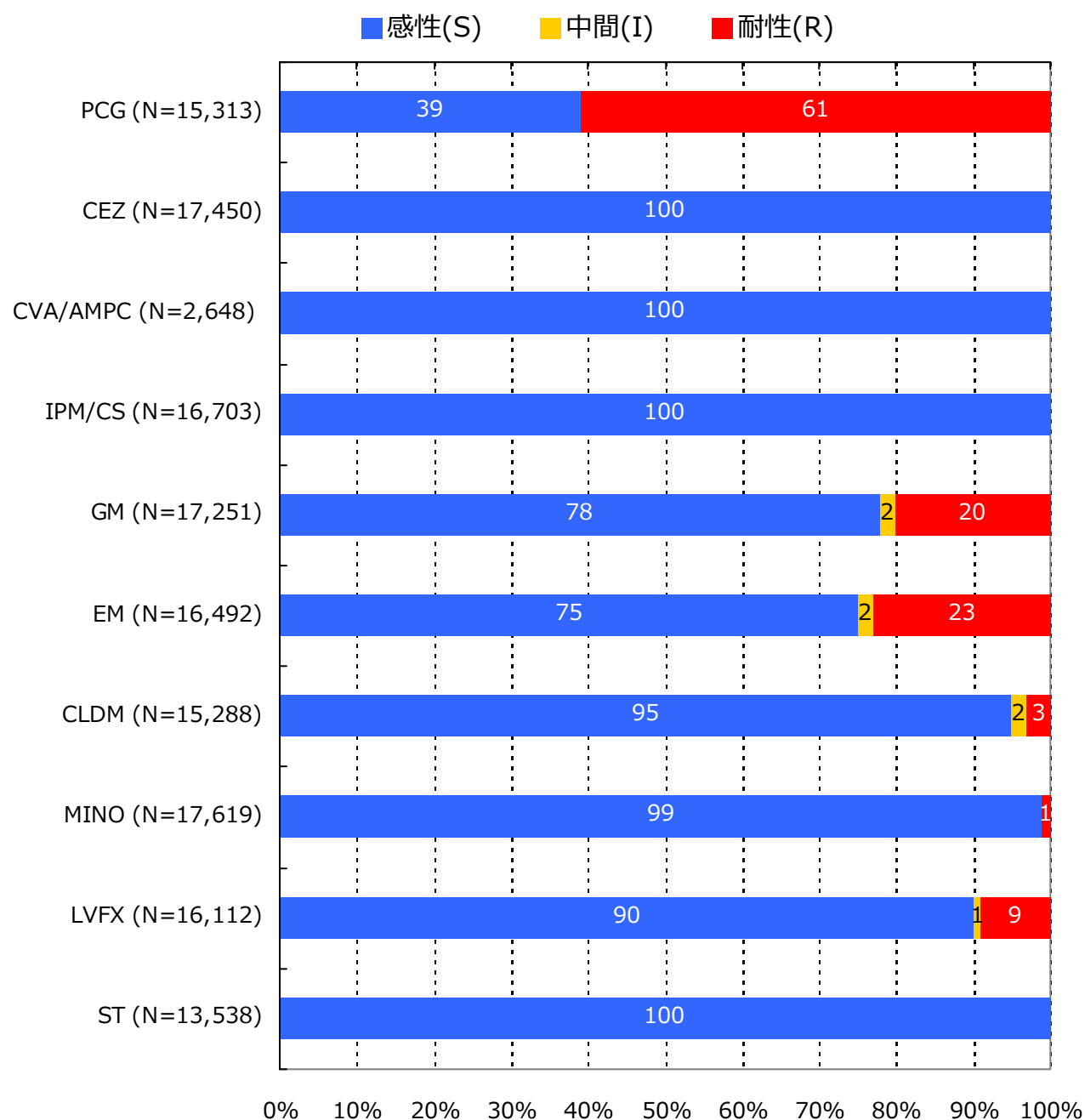
= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

箱ひげ図の説明はこちら: <http://www.nih-janis.jp/datause/index.html>

¶VRSAの報告は間違いであったことが確認されたため、確定報である2011年年報では0に修正される

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Staphylococcus aureus (MSSA) †



入院患者として報告された検体を集計した

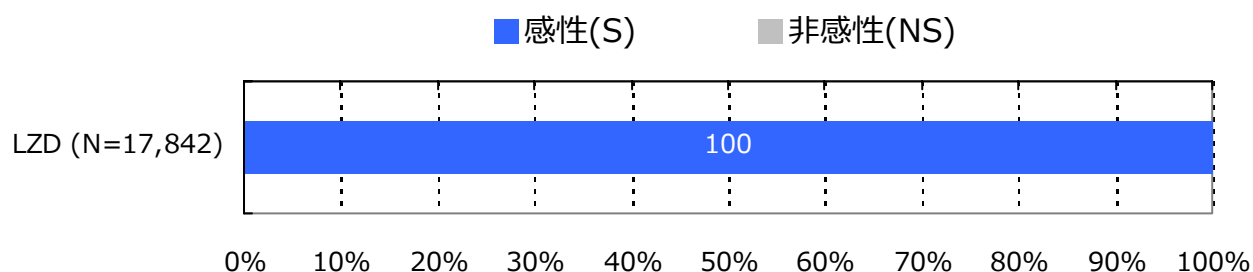
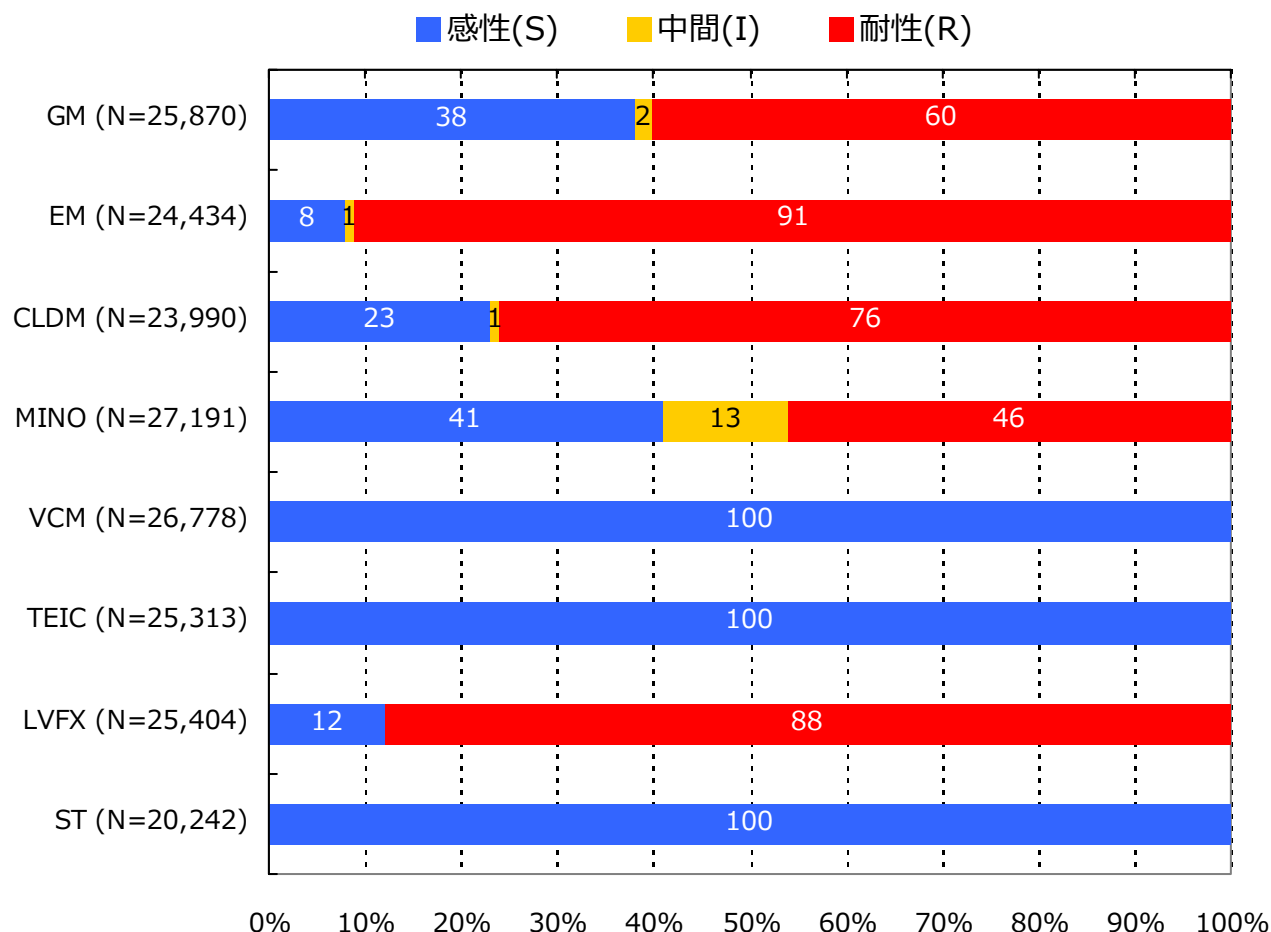
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Staphylococcus aureus (MRSA) †



入院患者として報告された検体を集計した

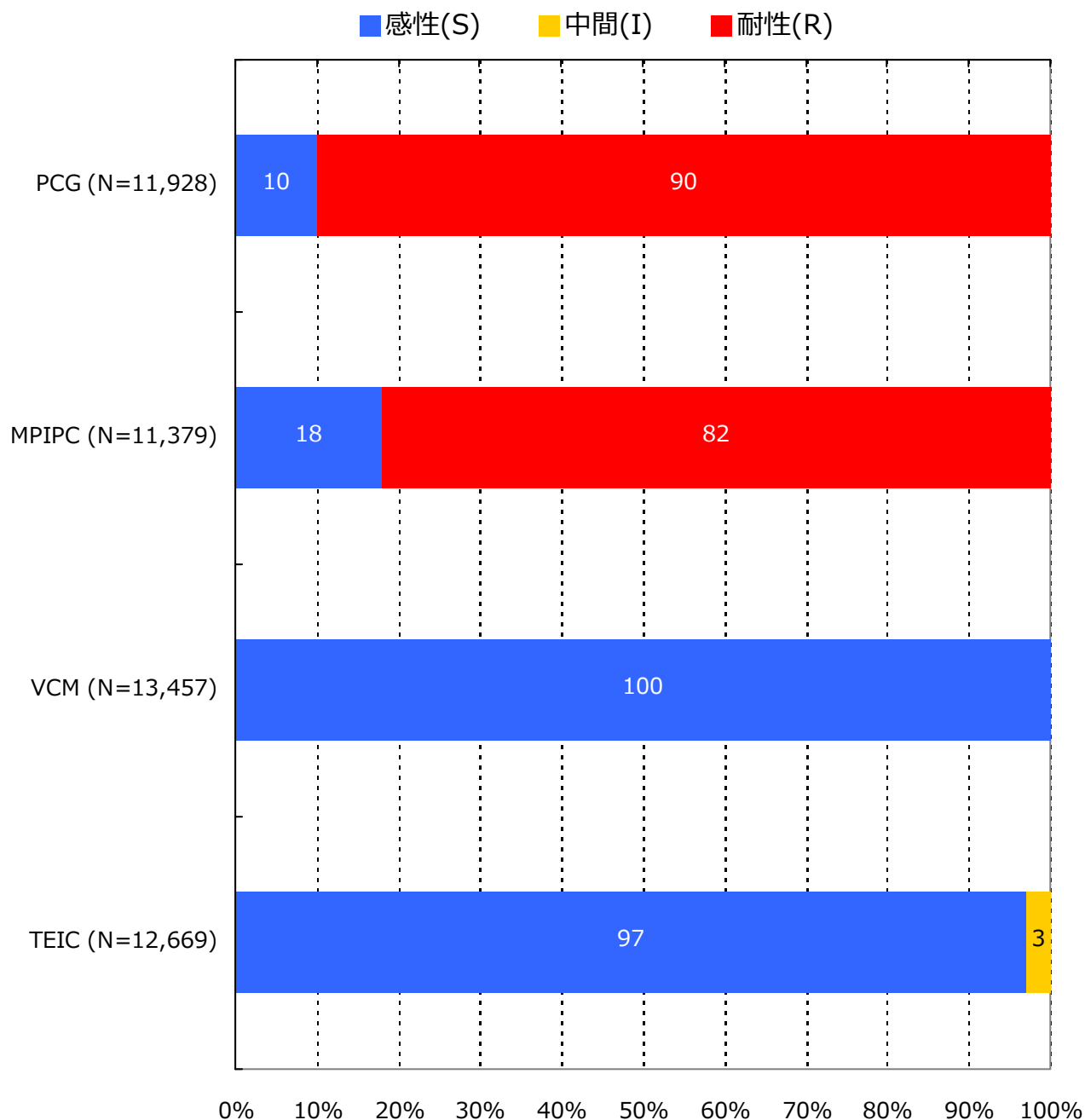
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1303と報告された菌および菌名コード：1301と報告され抗菌薬コード：1208（オキサシリン）の感受性結果「R」の菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Staphylococcus epidermidis †



入院患者として報告された検体を集計した

百分率を四捨五入し整数で表示

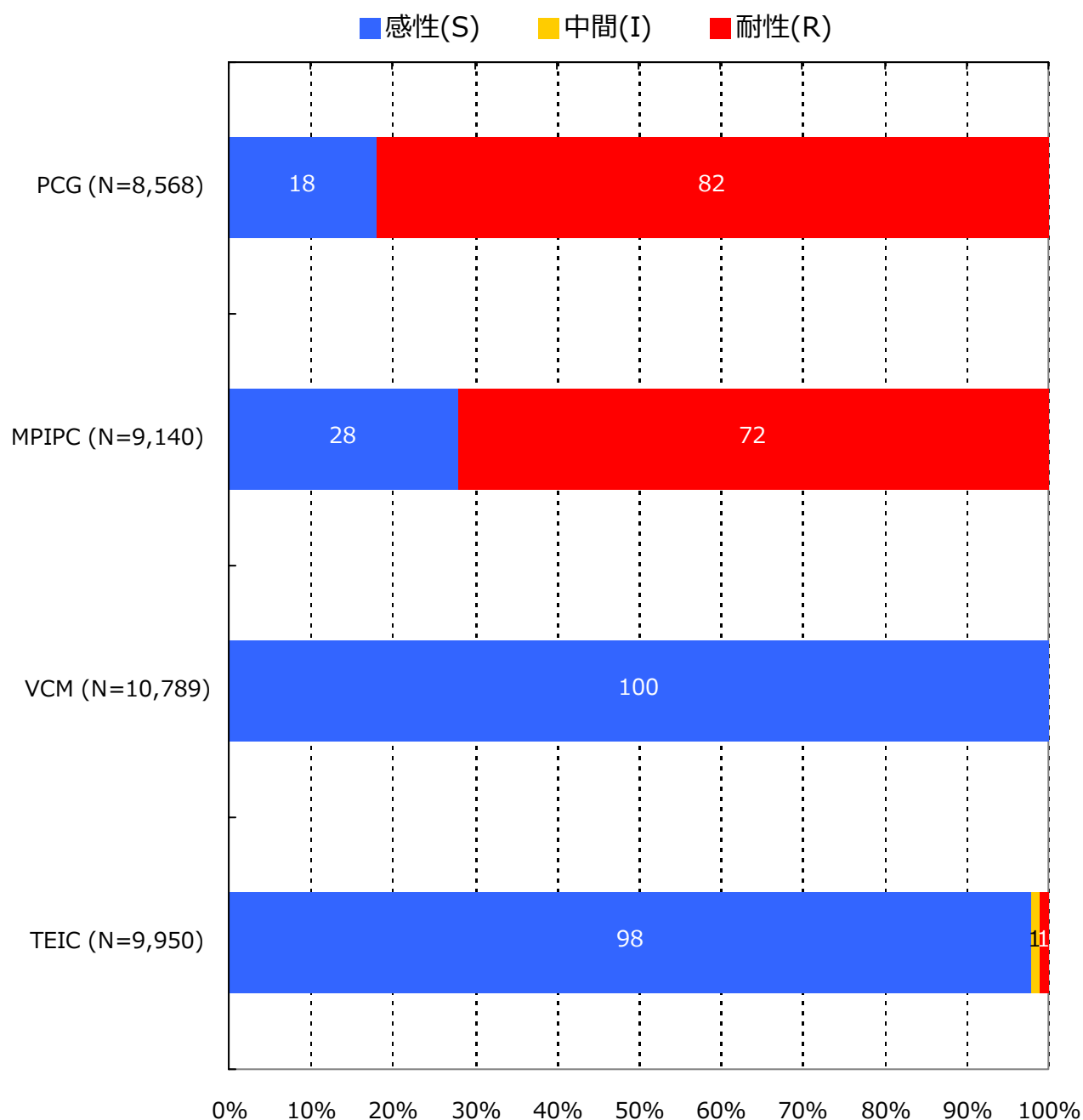
\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 1312と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院患者として報告された検体を集計した

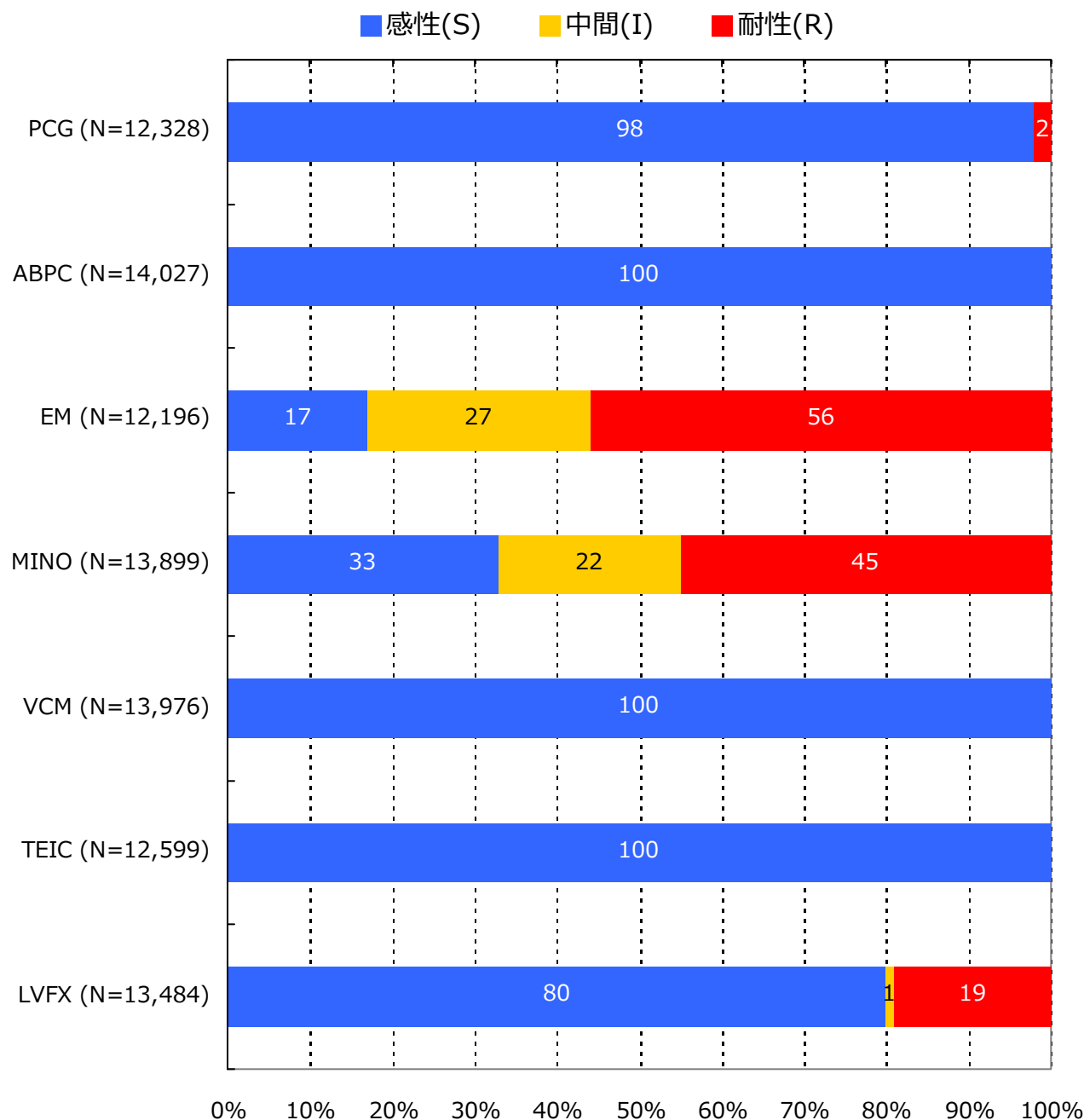
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : Staphylococcus epidermidisは対象外)

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

Enterococcus faecalis †



入院患者として報告された検体を集計した

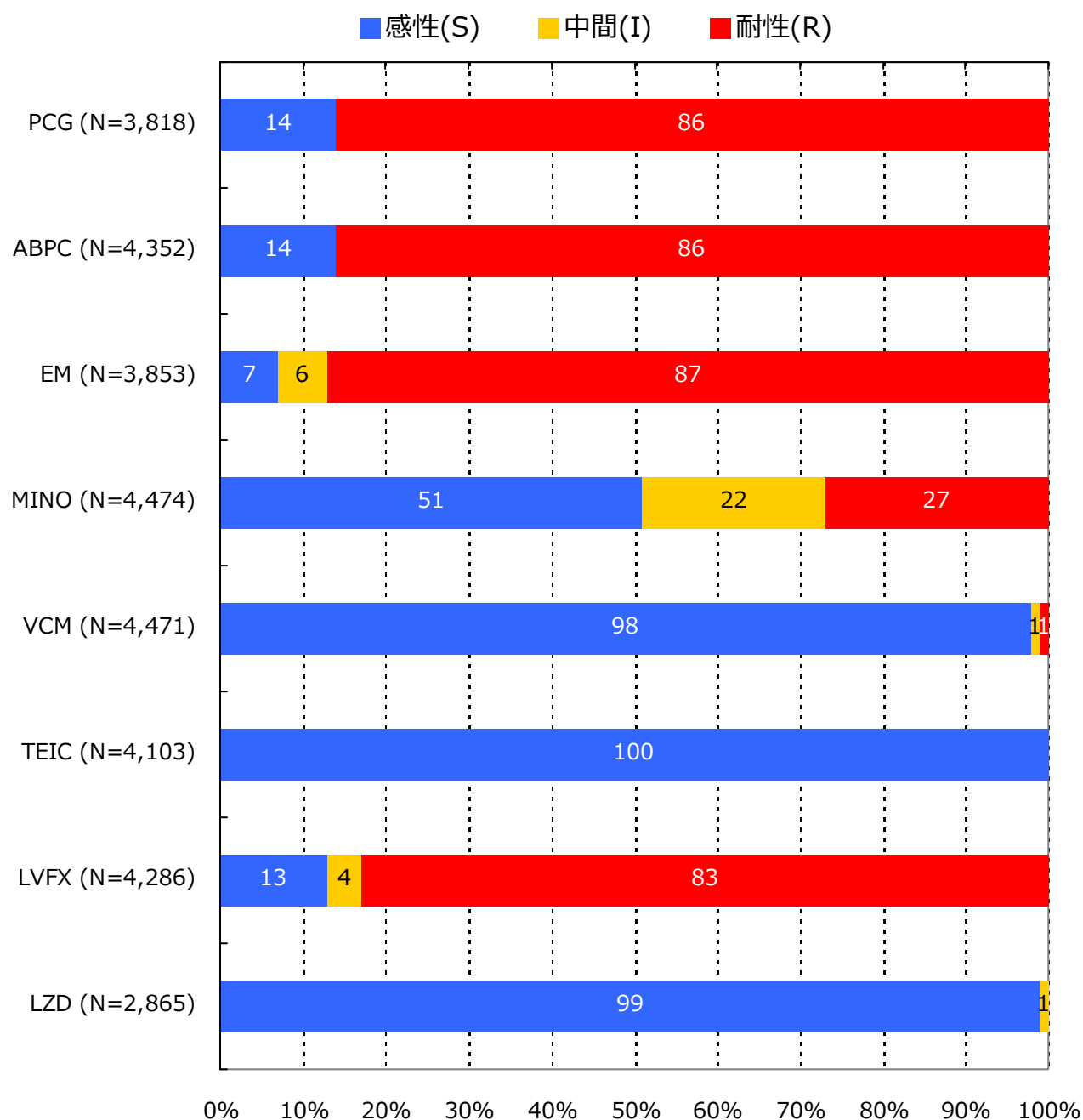
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Enterococcus faecium †



入院患者として報告された検体を集計した

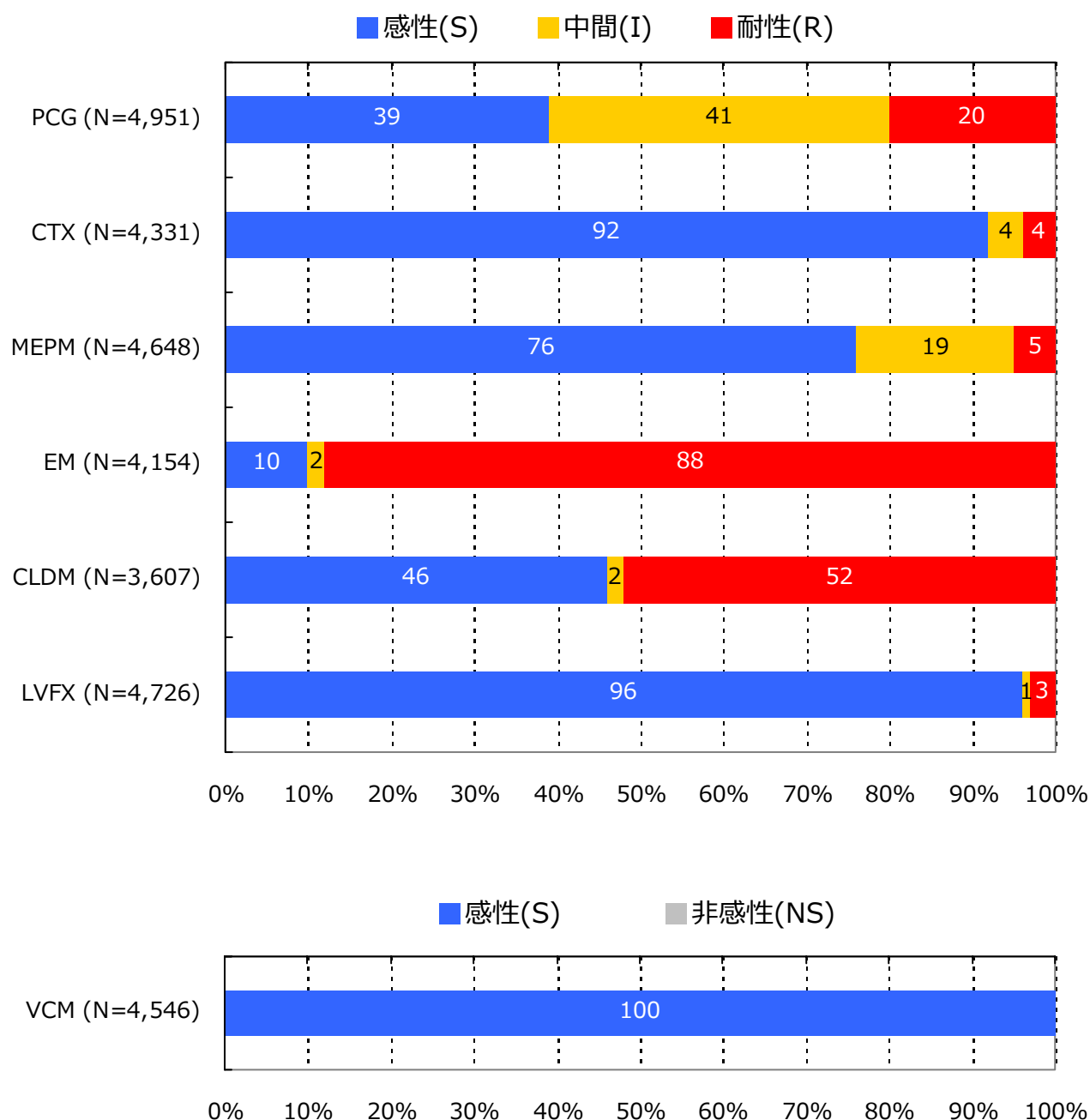
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1205, 1206と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Streptococcus pneumoniae †



入院患者として報告された検体を集計した

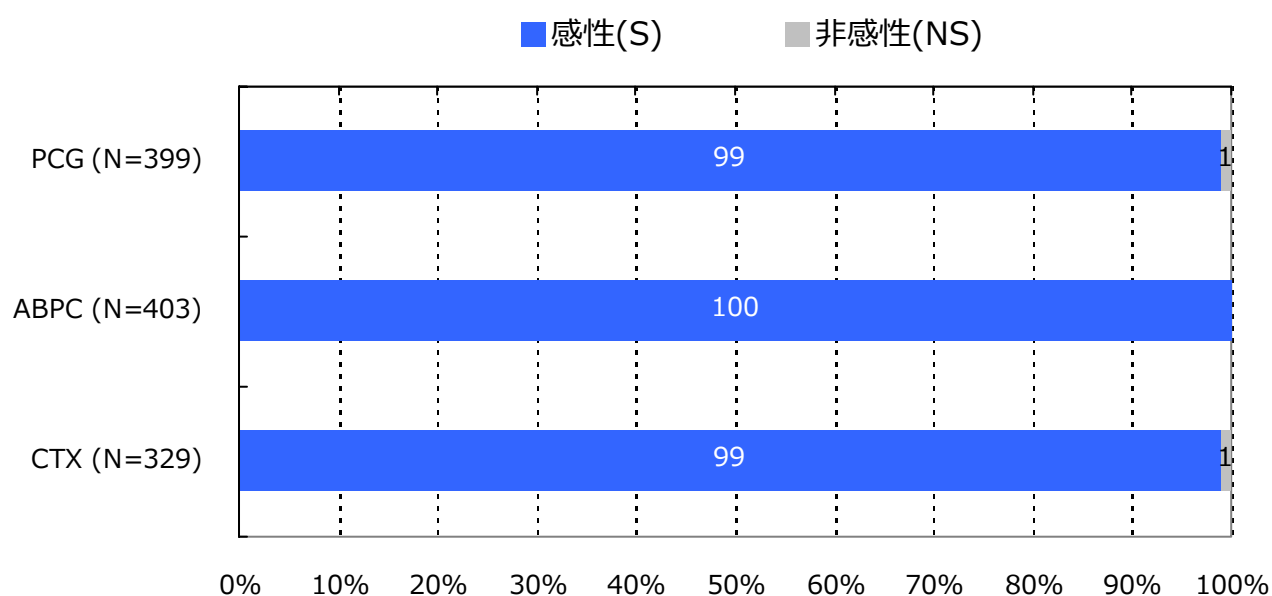
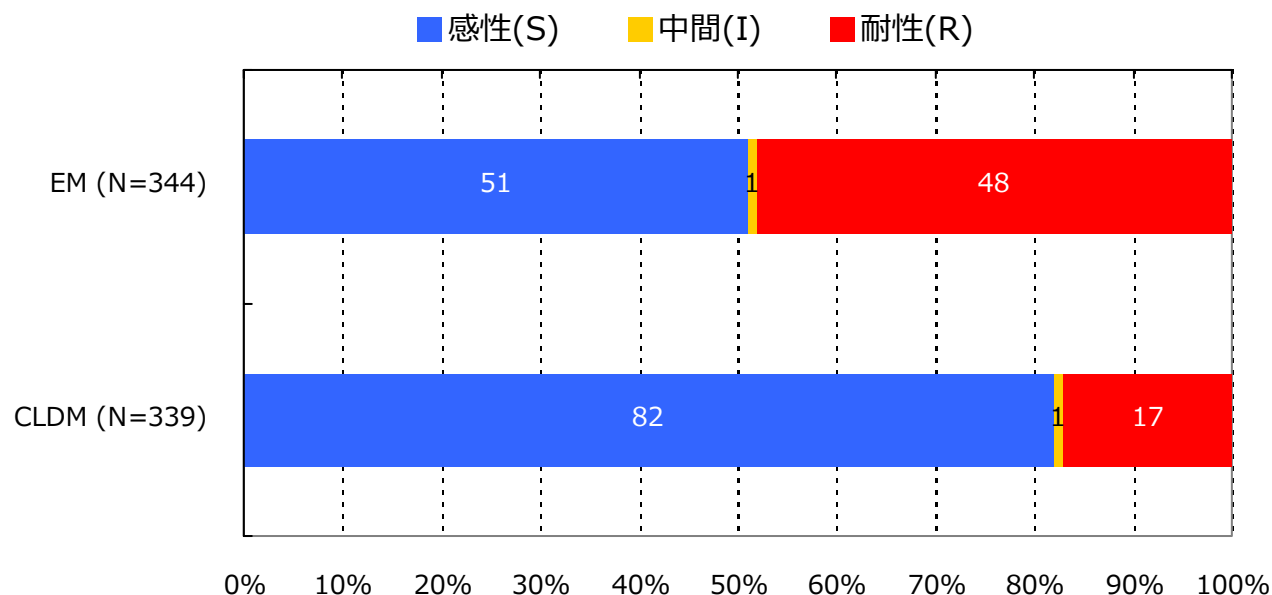
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1131と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Streptococcus pyogenes †



入院患者として報告された検体を集計した

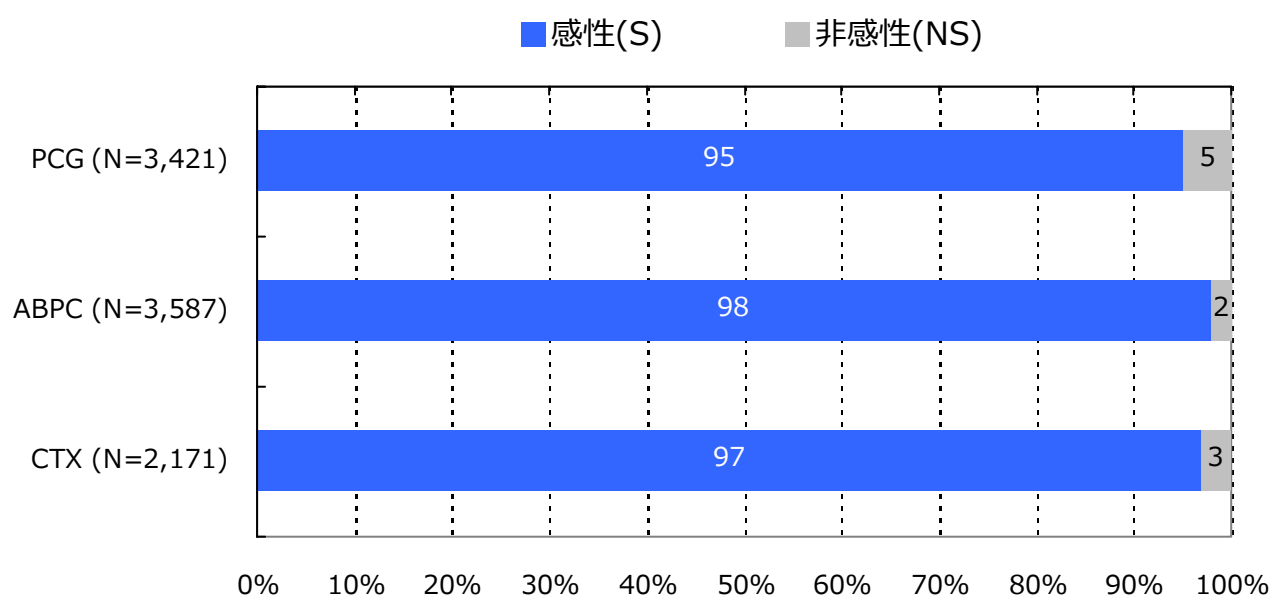
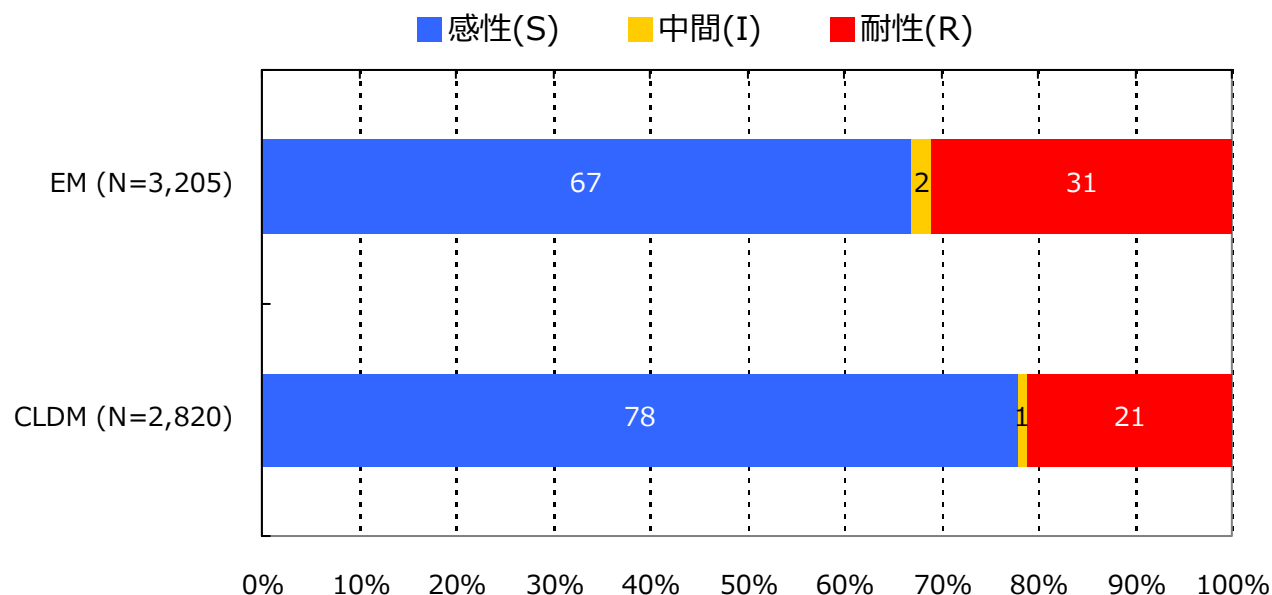
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1111と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Streptococcus agalactiae †



入院患者として報告された検体を集計した

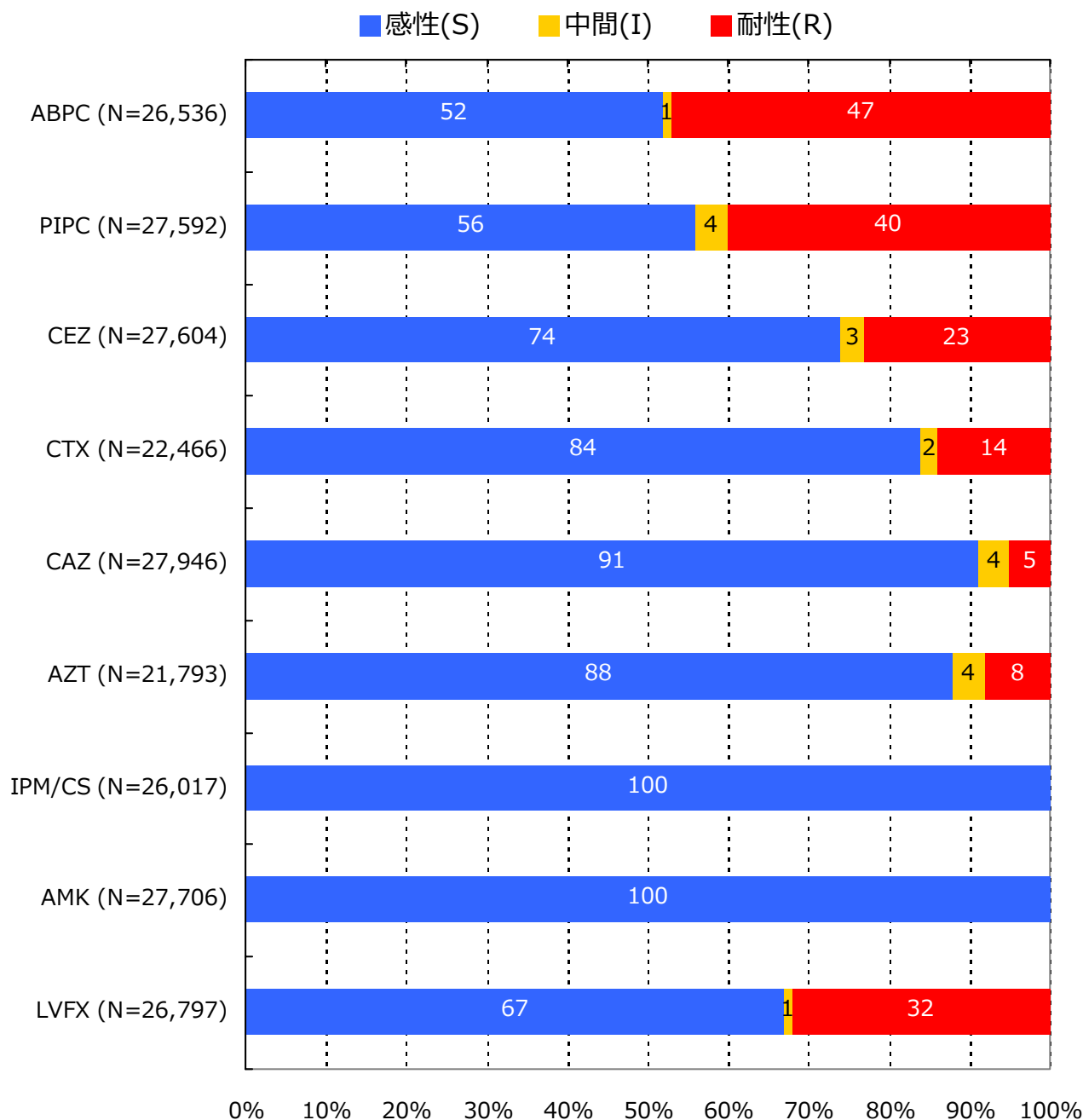
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1114と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

Escherichia coli †



入院患者として報告された検体を集計した

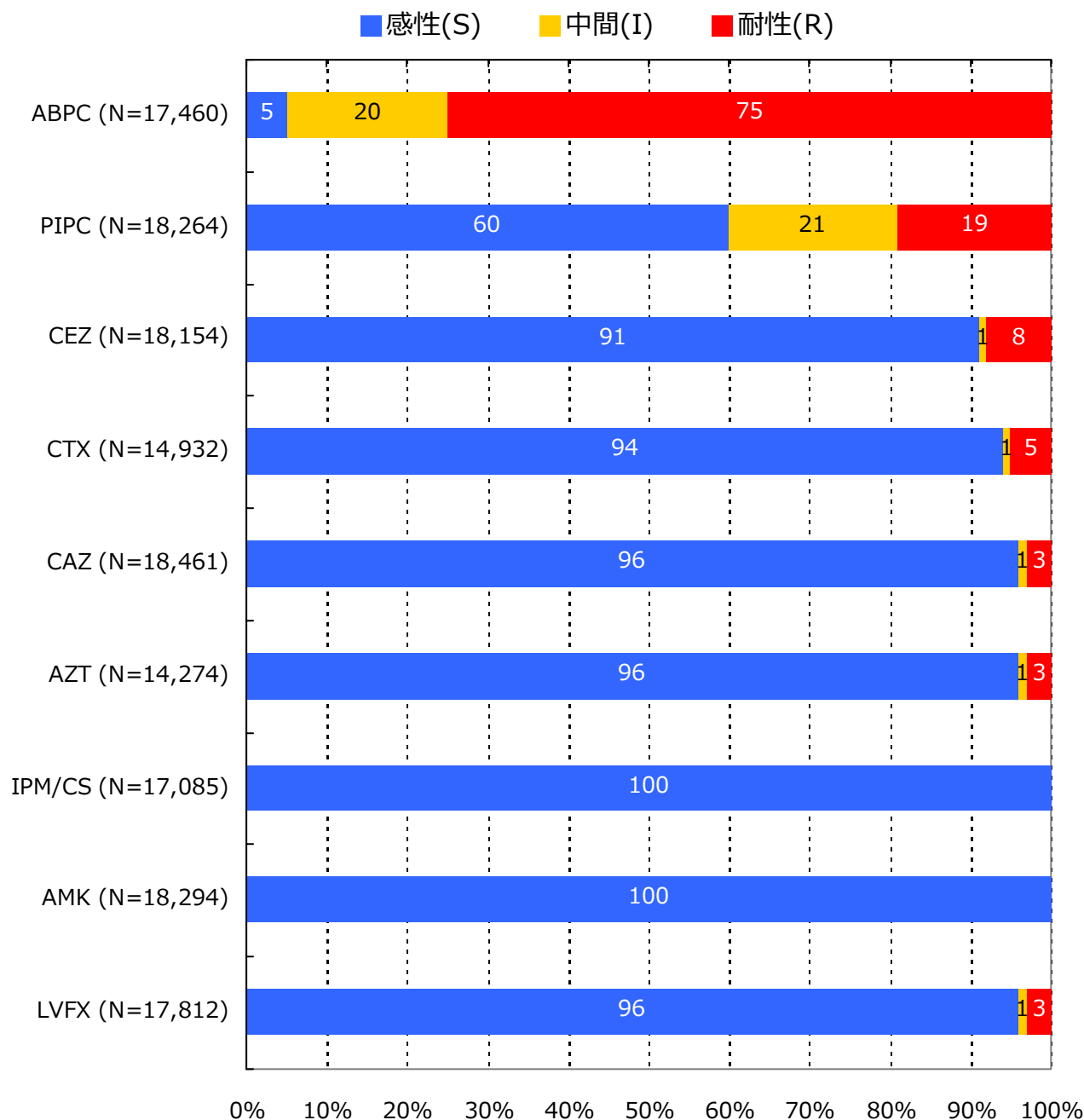
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Klebsiella pneumoniae* †



入院患者として報告された検体を集計した

百分率を四捨五入し整数で表示

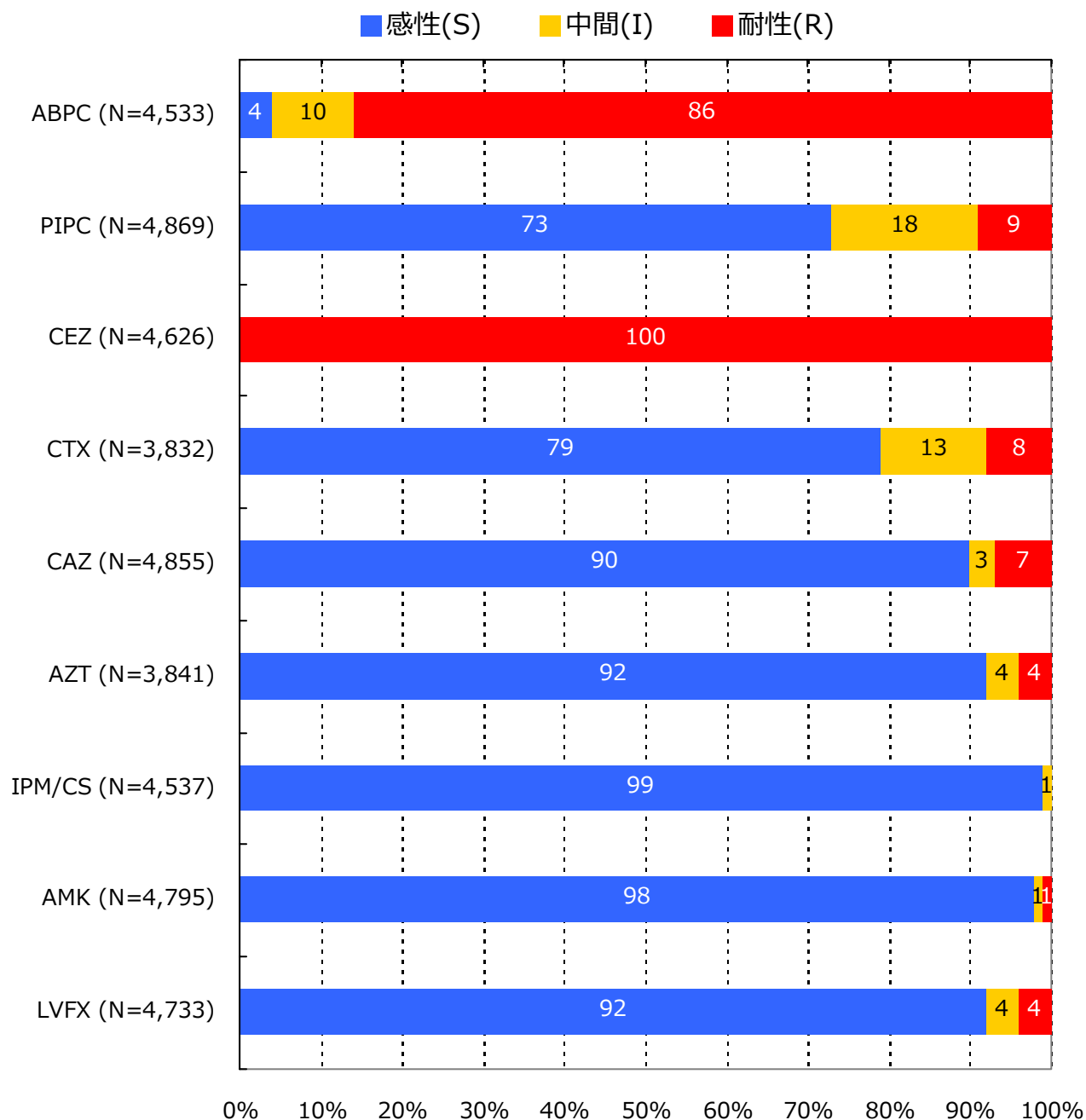
\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 2351と報告された菌



## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Serratia marcescens* †



入院患者として報告された検体を集計した

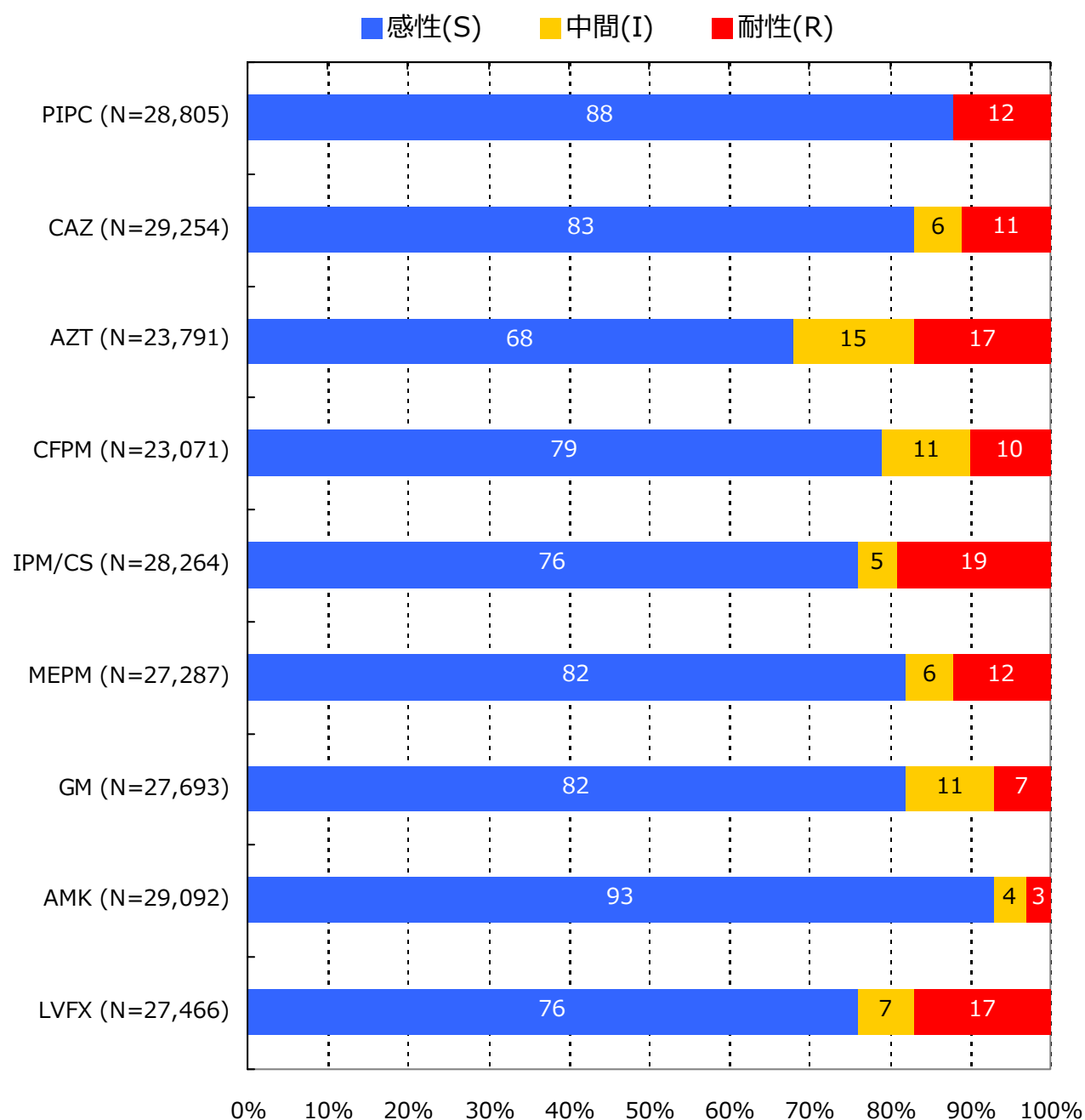
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 2101と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院患者として報告された検体を集計した

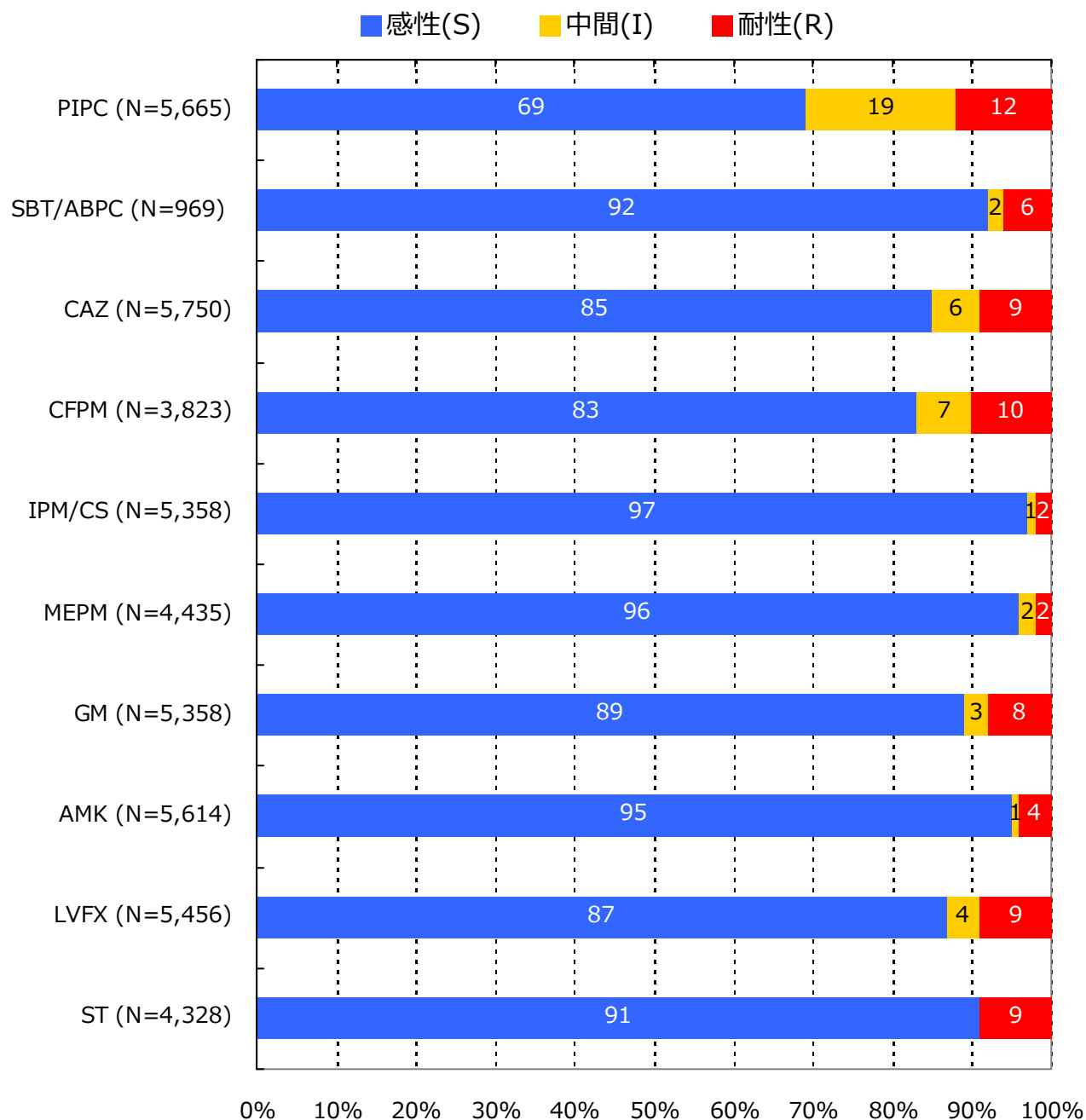
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 4001と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

Acinetobacter属†



入院患者として報告された検体を集計した

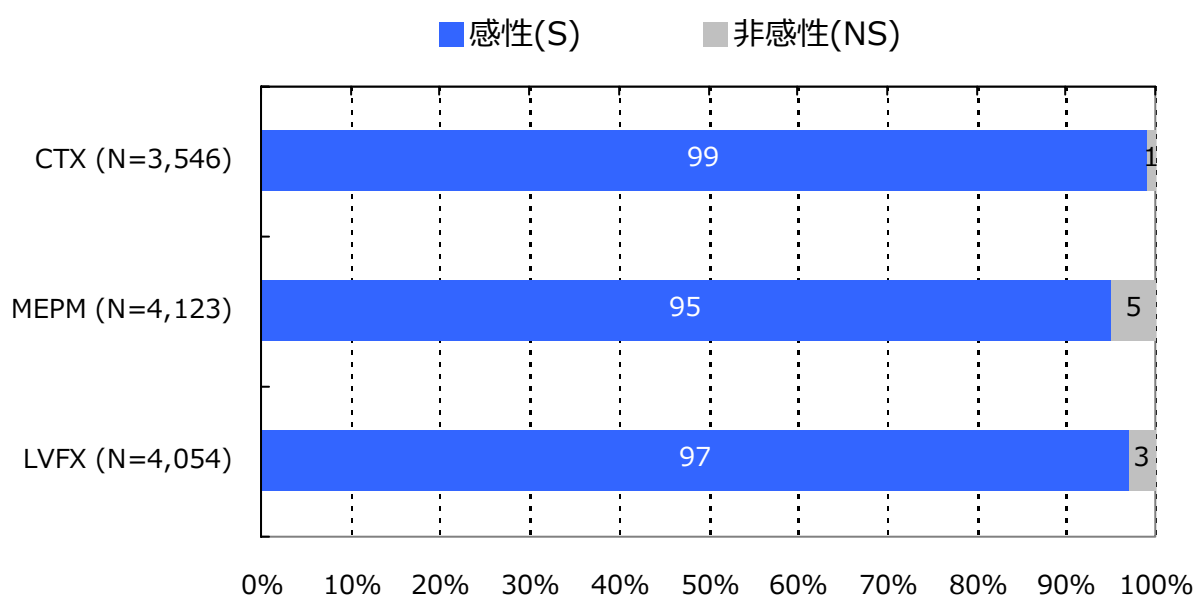
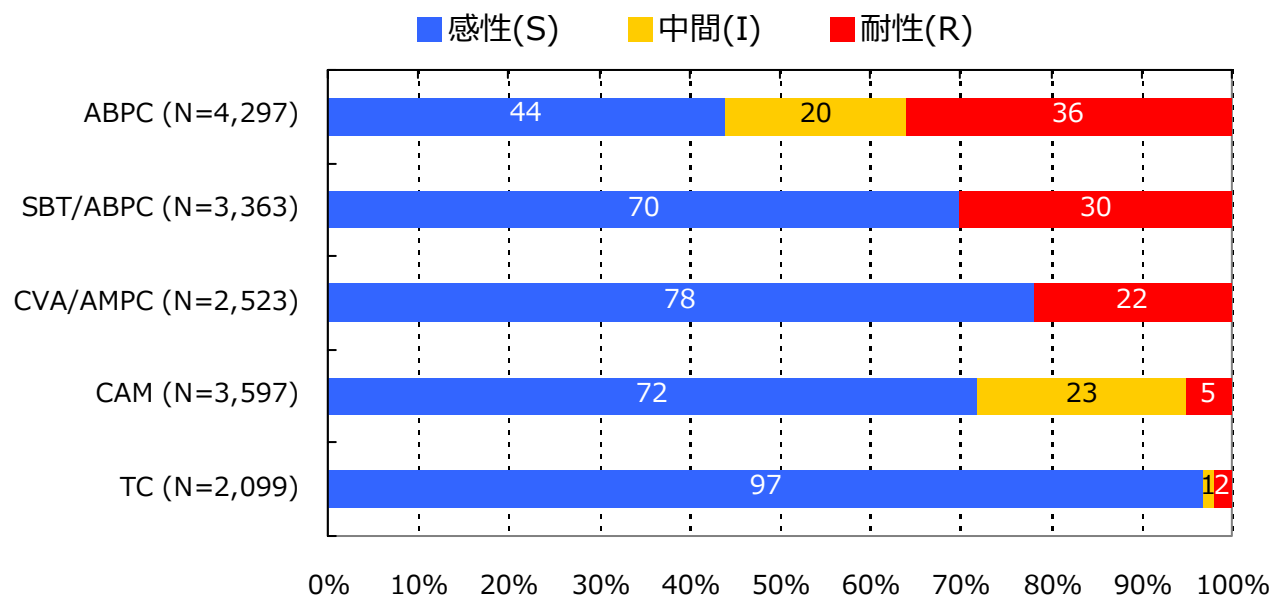
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, Rの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 4400～4403と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

### Haemophilus influenzae †



入院患者として報告された検体を集計した

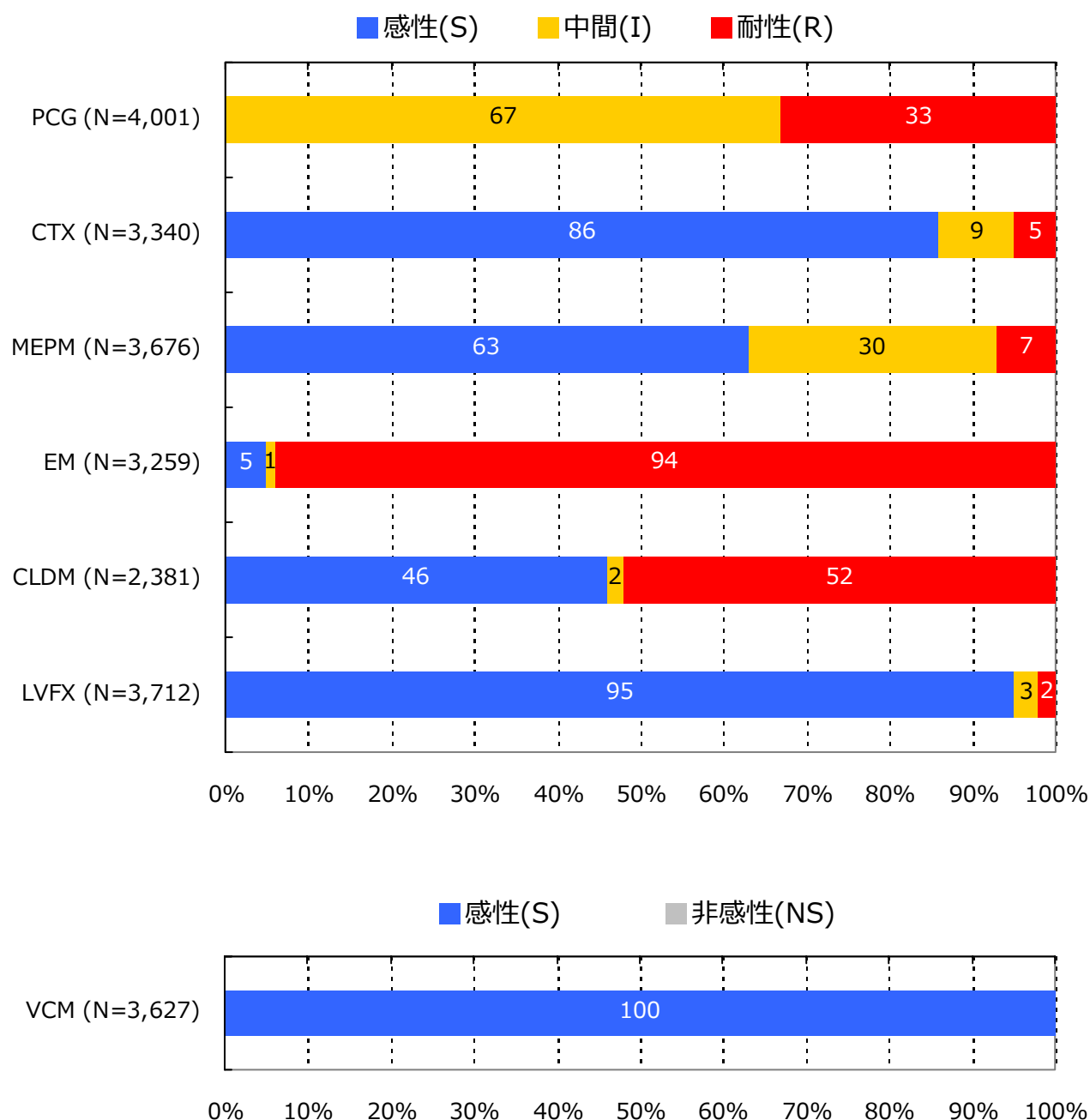
百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

## 5. 主要菌の抗菌薬感受性\*

Penicillin resistant *Streptococcus pneumoniae* (PRSP)外来患者対象†



百分率を四捨五入し整数で表示

\*米国CLSI 2007 (M100-S17)に準拠し、集計時にS, I, RまたはS, NSの判定ができない報告は集計から削除

† 菌名コード：1131と報告され抗菌薬コード：1201（ベンジルペニシリン）の感受性結果「I」「I or R」「R」の菌

# 公開情報 2011年7月～9月 四半期報

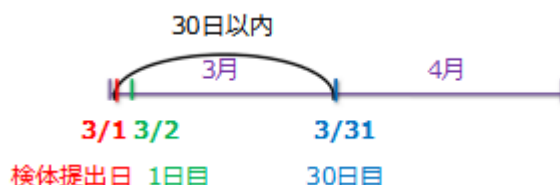
## 院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

### 【資料1 重複処理】

#### 1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を1日目とする。検体提出日が3月1日とすると、1日目が3月2日、30日目が3月31日となる。

例)

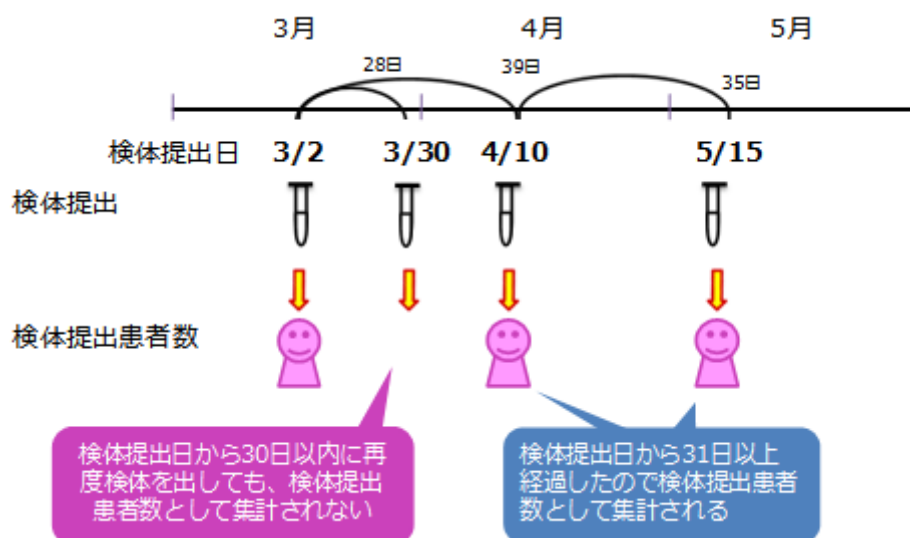


#### 2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。

検体提出患者数は重複処理を行っており、30日以内の同一患者からの複数の検体提出は1件とする。

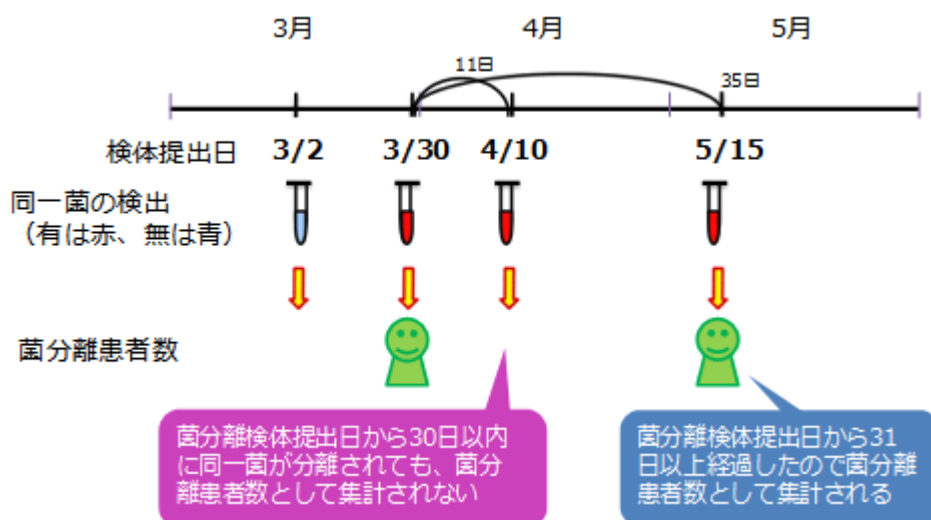
例)



#### 3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は1件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。

例)



# 公開情報 2011年7月～9月 四半期報

## 院内感染対策サーベイランス公開情報 検査部門

### 4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に1つ以上不一致（下記①～④のいずれかに該当）がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC値に4倍以上の違いがある  
ただし、 $MIC > 2$ は $MIC \geq 4$ と考え、判定時は $MIC = 4$ として扱う  
また、 $MIC < 16$ は $MIC \leq 16$ と考え、判定時は $MIC = 16$ として扱う
- ② SIR判定では「SとR」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「++と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が5未満

### 5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が（30日以内の）後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除します。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が（30日以内の）先の菌株の検査抗菌薬より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除しますが、先の検査の検体提出日を引き継ぎます。

例)

